

〔「熟議」を取り入れた学校と地域の連携・協働の取組〕

小・中一貫教育による9年間の児童・生徒の健やかな成長と発達を目指して

東京都三鷹市／三鷹中央学園

■ 活動の目的・概要

三鷹市では、法的な権限と責任を有する「学校運営協議会」を全ての学校に設置し、小・中一貫教育を行う学園には「コミュニティ・スクール委員会」を設置しています。

市民による学校運営への参画、教育活動への支援をはじめ、さまざまなコミュニティ・スクールとしての取組をとおり、義務教育9年間の児童・生徒の健やかな成長・発達、「人間力」「社会力」の育成をめざしています。

学校・家庭・地域がそれぞれ当事者意識をもち、「ともに」手を携えて教育にあたるシステムです。

三鷹中央学園とそれを取り巻く2つの地域



■ 活動の特徴・工夫

○三鷹中央学園パワーアップアクションプラン

コミュニティ・スクール委員会では、学園のめざす方向を学校と共有し、保護者・地域の声が反映された学校運営であるか、学校や子供たちの課題は何か、解決に向けてどのように取り組むのか等を、四中・三小・七小に通う全ての学園生の健やかな成長を願いながら議論を深めています。

みんなで知恵を出し合って完成した「三鷹中央学園パワーアップアクションプラン」は、4つのめざす学園生像を実現させるために、学校・家庭・地域、そして子供たち自身が「できること」を具体的に示した行動指針です。

それぞれの立場で「熟議」を行い、評価結果などを参考にし、毎年度、このプランを更新しています。

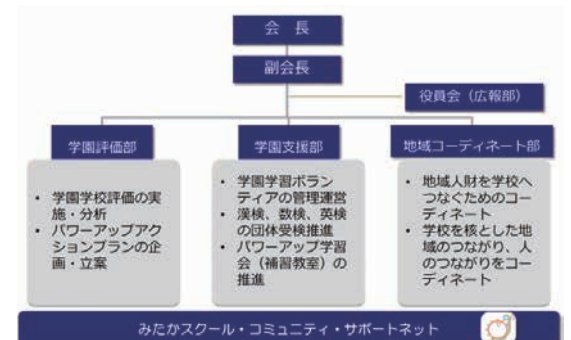
○学園及び各学校の具体的方策に対しての学校支援

学校の「やりたい！」を実現させるために、教育支援ボランティアに関わっていただいています。

毎年5月ごろに先生方とCS委員会との懇談会を開催し、先生方から「やりたい！」ことを出してもらいます。学校運営協議会では、それが「学校の基本方針に沿っているか」、「教育目標（めざす生徒像）の実現にどうつながるか」、「継続可能な支援の在り方かどうか」を協議し、進む方向性が決まったら、年間を通して計画的に支援を実施します。

一般的な授業サポートは「学園学習ボランティア」へ。ゲストティーチャーや地域人財の手配はコミュニティ・スクール委員会が行いますが、課題への対応が必要な場合は、「みたかスクール・コミュニティ・サポートネット」へ相談をします。

三鷹中央学園 【目指す学園生像】	学校での取組	子どもの取組	家庭での取組	地域での取組
すすんで学ぶ人 豊かな学力をたくむ	1. 教科書を読み解く力を養育する 2. 読解力や読書力の本格的な育成を図る 3. 読書と読書活動の推進を推進する	1. 読書を楽しむ、読書から学ぶ力を身につける 2. 読書の習慣を身に付ける 3. 読書を通して学び、読書から学ぶ力を身につける	1. 子どもの読書活動の推進に関心を持ち、声援をかける 2. 子どもの読書活動の推進に関心を持ち、声援をかける 3. 子どもの読書活動の推進に関心を持ち、声援をかける	1. 読書活動の推進に関心を持ち、声援をかける 2. 子どもの読書活動の推進に関心を持ち、声援をかける 3. 子どもの読書活動の推進に関心を持ち、声援をかける
感謝と思いやりの心をもつ人 豊かな人間性をたくむ	1. 感謝の心を育てる 2. 思いやりの心を育てる 3. 自己肯定感を育てる 4. 自己管理能力を育てる	1. 感謝の心を育てる 2. 思いやりの心を育てる 3. 自己肯定感を育てる 4. 自己管理能力を育てる	1. 子どもの感謝の心を育てる 2. 子どもの思いやりの心を育てる 3. 子どもの自己肯定感を育てる 4. 子どもの自己管理能力を育てる	1. 子どもの感謝の心を育てる 2. 子どもの思いやりの心を育てる 3. 子どもの自己肯定感を育てる 4. 子どもの自己管理能力を育てる
たくましい心と体をもつ人 心身の健康をたくむ	1. 健康な心と体を育てる 2. たくましい心を育てる 3. たくましい体を育てる 4. 健康な心と体を育てる	1. 健康な心と体を育てる 2. たくましい心を育てる 3. たくましい体を育てる 4. 健康な心と体を育てる	1. 子どもの健康な心と体を育てる 2. 子どものたくましい心を育てる 3. 子どものたくましい体を育てる 4. 子どもの健康な心と体を育てる	1. 子どもの健康な心と体を育てる 2. 子どものたくましい心を育てる 3. 子どものたくましい体を育てる 4. 子どもの健康な心と体を育てる
地域・社会に貢献する人 地域を豊かにする力をたくむ	1. 地域を豊かにする力を育てる 2. 地域を豊かにする力を育てる 3. 地域を豊かにする力を育てる 4. 地域を豊かにする力を育てる	1. 地域を豊かにする力を育てる 2. 地域を豊かにする力を育てる 3. 地域を豊かにする力を育てる 4. 地域を豊かにする力を育てる	1. 子どもの地域を豊かにする力を育てる 2. 子どもの地域を豊かにする力を育てる 3. 子どもの地域を豊かにする力を育てる 4. 子どもの地域を豊かにする力を育てる	1. 子どもの地域を豊かにする力を育てる 2. 子どもの地域を豊かにする力を育てる 3. 子どもの地域を豊かにする力を育てる 4. 子どもの地域を豊かにする力を育てる



■ 立ち上げ当時

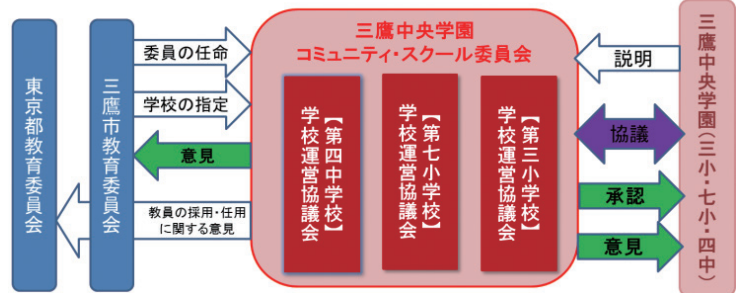
○コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育

三鷹中央学園の3つの学校、第四中学校・第三小学校・第七小学校は、地域の学び舎として、半世紀以上の歴史を刻んできました。いつの時代も、この地域の人々の輪によって子供たちは育まれてきました。「人の輪のつながり」は、この四中学区の大きな財産です。

その良き伝統を受け継ぎ、平成21年4月、コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育校「三鷹中央学園」が開園しました。

以来、コミュニティ・スクール委員会を学校・家庭・地域の架け橋として、「地域とともにある学校」づくりに取り組んできました。

コミュニティ・スクール委員会 = 学校運営協議会



■ 展開・現在

○学園と地域の協働による取組 ～防災授業～
みたかスクール・コミュニティ・サポートネットやコミュニティ・スクール委員会・市の防災課・住民協議会の皆さんの御支援のもと、学園防災副読本「カンガエル地域防災」を踏まえて、9年間の系統性を意識した「防災授業」を学園の3校で実施しています。



地域安全マップの作成



総合防災訓練

○その他の取組

連携・協働の取組を通して、保護者・地域の学校への理解が進み、教育活動への協力体制が広がりました。また、児童・生徒の学力向上や自己肯定感・自己有用感の向上に結びついています。

- ・ゲストティーチャー・地域人財の活用 → より豊かな体験学習・活動
- ・学園学習ボランティアの管理運営 → 個に応じた指導、多様な授業
- ・漢検、数検、英検の団体受検推進 → 自らチャレンジする心の育成
- ・パワーアップ学習会（補習教室）の推進 → 学力定着への個別対応

■ 今後の展望・課題

保護者や地域の皆さん、教職員が協働して学園の子供たちの教育を進めてきました。小・中の連携が進み、相互乗り入れ授業や学園での交流活動などについての児童・生徒の評価は高く、小・中学校間の段差解消も進んでいます。また、コミュニティ・スクールの運営においても、学園と地域の連携、協働は順調に進み、児童・生徒が地域の皆さんから教育活動への支援を受け、触れ合いをとおして地域の子供として育てています。そして、それぞれの課題解決に取り組み、よりよい学園・地域を目指し、一步一步ですが、着実に前進しています。

子供たちのためによりよい教育を目指し、学校・保護者・地域との「熟議」と「協働」を通して、コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育のさらなる充実・発展に努めていきます。

HP：三鷹中央学園

<http://www.mitaka-schools.jp/mitakachuo/>

連絡先：三鷹市立第四中学校

三鷹市立第三小学校

三鷹市立第七小学校

0422-43-9141

0422-43-2128

0422-44-5378

[首長部局等との熟議・協働・マネジメントによるCSの充実]

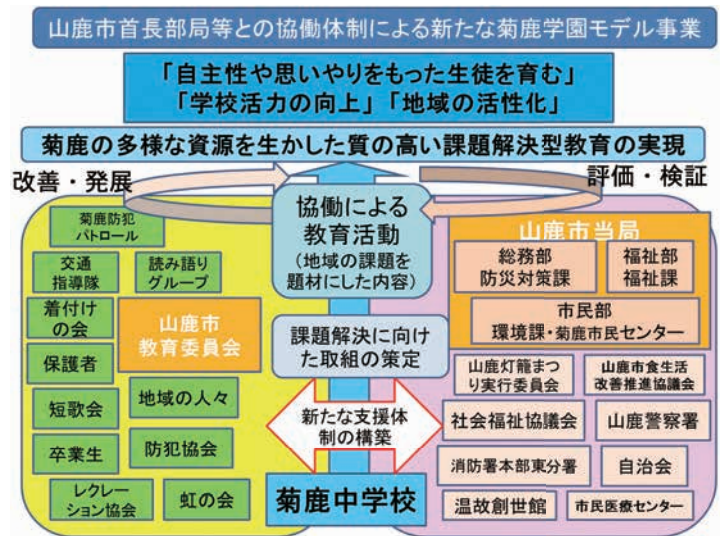
地域総がかりで育む子供たちの自主性と思いやり

熊本県山鹿市 / ^{やまが}山鹿市立 ^{まぐか}菊鹿中学校

■ 学校運営協議会制度導入の目的・概要

○子供は地域の宝

菊鹿中学校区は、以前から、地域・保護者の皆様、各種団体から支えられてきた地区です。本校の実態として、思いやりのある生徒が多く、何事にも誠実に取り組むという良さがありました。しかし、この良さを自分たちで表現するという面では、少し課題がありました。そこで、各種団体の皆様の協力を得て、地域総がかりで「自主性や思いやりをもった生徒を育む」という共通の目標をめざし、コミュニティ・スクールを導入しました。学校運営協議会で協議を重ね、具体的な活動に結びつけています。



■ 活動の特徴・工夫

○研究推進委員会

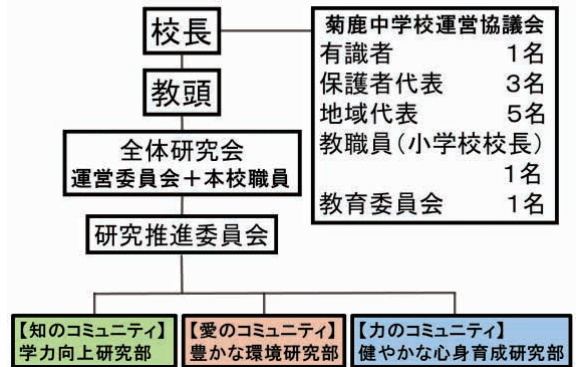
学校運営協議会で協議した学校運営の基本方針や目標を具体的な活動に結びつけていくために、研究推進委員会に3つの部会（学力向上研究部・豊かな環境研究部・健やかな心身育成研究部）を設けています。それぞれの部会で年間計画を立て、コミュニティ・スクールとしての活動に取り組んでいます。

○学校と地域が連携・協働して行う取組

それぞれの研究部が中心となって、教育活動の支援を中心に取り組んでいますが、活動を通して、地域の方々が気軽に学校に足を運ばれるようになりました。また、子供たちが地域の行事や花いっぱい運動等を通して、「地域に貢献する」という場面も増えてきました。

学校と地域が互いに支え合っていく関係が、ますます進んでいます。

菊鹿中学校コミュニティ・スクールの組織



【知のコミュニティ】



短歌作成支援

【愛のコミュニティ】



花いっぱい運動

【力のコミュニティ】



奉仕作業

■ 立ち上げ当時

○菊鹿中を支える地域

菊鹿中学校区は、以前から、地域・保護者の皆様、各種団体から支えられてきた地区で、学校への支援体制が充実していました。例えば「虹の会」は、“地域の子供は、地域で守り育てる”というポリシーのもとに組織されたボランティア団体です。1中3小の学校行事やPTA活動、地域の行事等に支援をいただいています。そして、平成25年10月1日にコミュニティ・スクールの指定を受け、3つの研究部を中心に、学校・家庭・地域の連携・協働の取組を充実させてきました。

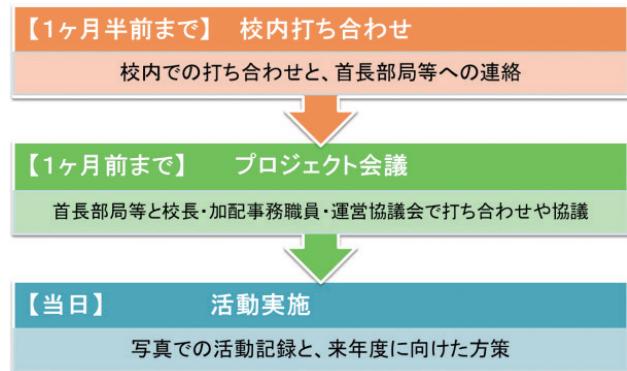


■ 展開・現在

○首長部局等との熟議・協働・マネジメントによる

菊鹿中コミュニティ・スクールの充実・発展
平成27年度からは、首長部局との連携による取組を進めています。首長部局が連携・協働の仕組みに加わることで、コミュニティ・スクールの取組をより一層充実するとともに、継続した取組が可能になります。実施までの準備は、各活動の校内担当者と加配事務職員が核となって進めています。役割分担・相談・連絡調整を行った上で、プロジェクト会議を開催しています（事前の打合せや協議等）。

山鹿市首長部局等との協働体制による取組の流れ



（取組事例） ・ 防災訓練（講話） ・ 認知症サポーター養成講座 ・ きくか夏まつりへの参加 等

首長部局との連携を実施するにあたって、年度当初に市役所の各課への周知・協力依頼を行うとともに、年間計画を作成し、誰（どの団体・部署）が、どのように関わるのかを「見える化」するようにしています。

■ 今後の展望・課題

今後、菊鹿中学校のコミュニティ・スクールを更に充実させるためには、いかに「継続」・「深化」させていくかが鍵であると考えています。

まず、子供たちを、地域や社会に貢献できる大人にするために、「人をつなぐ」という作業が必要になります。また、子供の地域行事参加から地域貢献へどう高めていくか。保小中の更なる連携強化に向けてどのように進めていくか。地域のコミュニティセンター的な役割をどうやって果たしていくか。システムの連携と行事をどのように活性化するか。次の学校運営協議会委員・教職員にいかに関承していくか。併せて、保小中で人材を共有化していくことなど、多くの課題がありますが、これからも実践を重ねながら、理想的な菊鹿学園の形を目指し、引き続き研究を続けていきます。

[学校支援本部・地域青少年育成会議との連携・協働]

地域的課題解決と子供たちの教育環境の充実を目指して

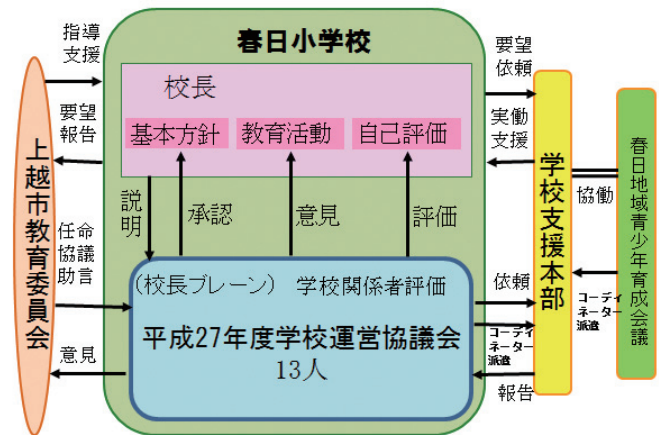
新潟県上越市／上越市立春日小学校

■ 学校運営協議会制度導入の目的・概要

○市内各学校に先駆け、パイロット校として学校運営協議会制度を導入

春日小学校では、学校の中心課題を「社会性の育成」としている。この目標を達成するために、学校と地域が連携・協働する仕組み作りを行ってきました。これまでも学校関係者評価を行っていましたが、評価委員会がイベント的であること、委員に充て職が多く、学校教育との格差が感じられること、学校改善までに十分つなげられていなかったことなどの課題がありました。そこで、学校関係者評価により実効性をもたせるために、委員が一定の権限をもつ学校運営協議会制度を市内の学校に先駆けて取り入れ、基本方針の承認から保護者や地域の方が関わる体制づくりを行いました。

また、学校運営協議会の実働部隊として学校支援本部を設置し、学校関係者との打合せを重ねて運営にあたるとともに、青少年育成会議との連携・協働体制をとることによって、日常の子供の姿を地域全体で把握し、子供たちの教育環境の充実を目指しています。



■ コミュニティ・スクールの特徴・工夫

○「実働性」のある学校支援本部

学校内に地域連携室を2室設置し、隔週火曜日に、地域コーディネーターが常駐しています。

ここでコーディネーターは

- ①学校・子供の現状把握
- ②学校のニーズへの支援
- ③地域の情報提供

を担い、学校と地域をつなぐ役割を果たしています。



コーディネーターと相談する教職員（地域連携室1）

(例) お店探検！

学年の要望

学校支援本部地域
コーディネーター

地域の
商店街



<担任の期待以上の店舗数を確保>

○学校運営協議会と青少年育成会議の両輪で進める子供の育成

春日地域の小中学校と、春日地域青少年育成会議との広域的な協働体制を構築しています。青少年育成会議からコーディネーターが入ることにより、地域的課題解決に向けて学校や地域から具体的に示された方策をスムーズに実行に移せる体制が整っています。

■ 立ち上げ当時

平成23年度にCS準備委員会を設置。7回の準備会を行い、コミュニティ・スクールとしての在り方や運営について協議を行ってきました。

また、校舎の余裕スペースを活用して地域連携室を設置し、決まった日にコーディネーターが常駐。職員からの相談に応じてもらうことにしました。これが、現在の実働組織である春日小学校支援本部の基礎となりました。

学校評価についても準備委員会から、ランドデザインの作成に携わってもらうことで、委員の方のモチベーションがあがりました。

地域啓発のためのリーフレットの作成にもあたりました。



地域啓発リーフレット（平成23年度）

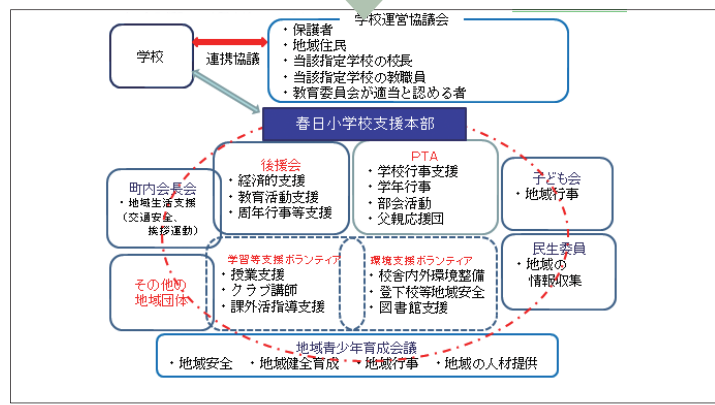
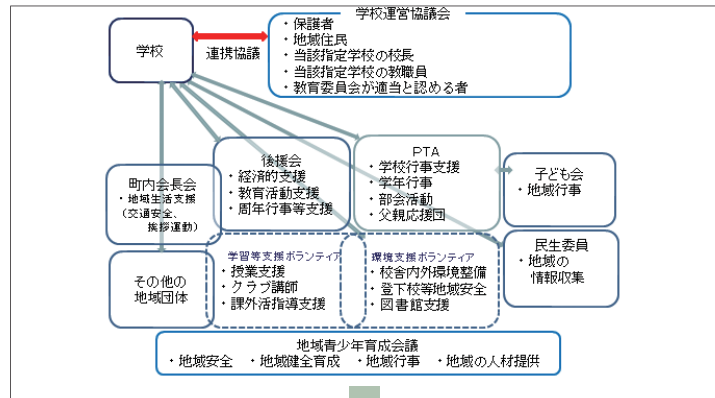
■ 展開・現在

○学校運営協議会と学校支援本部

学校運営協議会と学校支援本部の2つを分離した体制をとることにより、それぞれの役割と権限が明確になり、結果として学校運営協議会の負担軽減につながっています。

○青少年育成協議会との協働

コミュニティ・スクールに指定されたときに、地域青少年育成会議と学校運営協議会との協働体制の強化が打ち出されました。この要請に対応すべく、平成26年に組織の改編が行われた。規約についても「地域の教育体制を考える」とあったのを、「学校運営協議会と連携して地域の教育体制を考えること」に改編されました。ここに春日地域の小中学校と春日地域青少年育成会議との広域的な協働体制が構築され、5名のコーディネーターは春日地域青少年育成協議会から2名、学校運営協議会から3名があたり、学校運営協議会と青少年協議会の両輪で子供を育てようとするモデルになっています。



■ 今後の展望・課題

課題としては、地域の人財確保の継続性があげられます。委員は自らを磨きつつ、後継者を育てることが重要です。また、更なる学校理解と子供理解を進めるために、学校運営協議会制度の地域啓発と、目に見える子供たちの成果をあげる必要があります。

そして、学校支援本部と他組織との連携協働をさらに進め、先生方の要望を的確に把握し、それに応えていくとともに、地域住民への浸透を図っていく必要があります。

[学校運営協議会制度を活用した高等学校における地域との連携・協働の取組]

まちを活性化する高校生の“ミッション”

高知県幡多郡黒潮町／高知県立大方高等学校

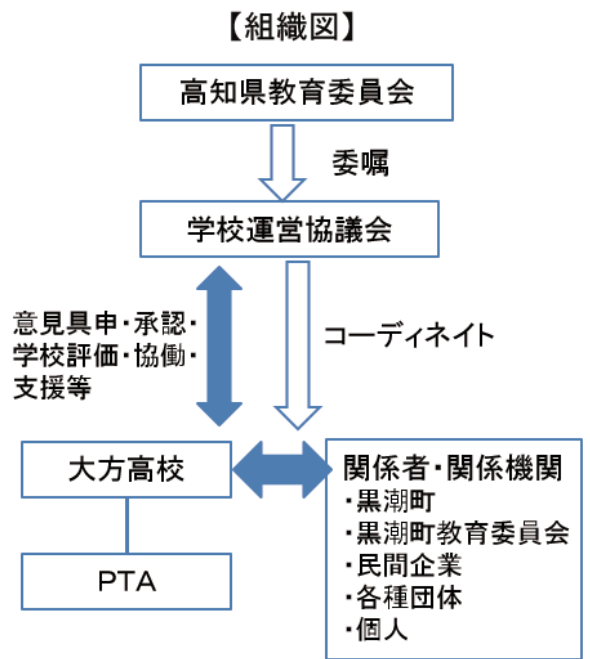
■ 学校運営協議会制度導入の目的・概要

○学校再編をきっかけに地域に目を向ける

高知県黒潮町では、高校の廃校により、地域に最大の「空き屋」が生まれ、地域が疲弊することが懸念されていました。そのため新しい高校として生まれ変わる大方高等学校と連携し、目標を地域活性化の拠点に位置づけ、「地域に支えられた学校に」という考えのもと、地域参画型の学校を目指すこととなりました。

その取組の中で毎年、地域の人たちが大方高等学校の生徒に、まちの課題を解決するための「ミッション」を提示し、生徒はその達成に向けて学習に取り組んでいます。

「自律創造型地域課題解決学習」と名付けられたこの取組では、黒潮町の特産品の開発、観光マップの作成、イベントへの参加・協力など、地域資源を生かしたアイデアが生まれてきました。地域の人たちと高校生の出会いがまちを変え、地域の活性化の拠点となっています。



■ コミュニティ・スクールの特徴・工夫

○運営体制

大方高等学校の「自律創造型課題解決学習」は、黒潮町内の団体との連携・協働が前提となっています。地域企業、地域団体、町役場に対するミッション提示の依頼や調整は、高校の総務部企画研修担当教員（総合学習コーディネーター）が窓口となり行われています。ミッションには、それぞれ担当教職員が配置され、生徒が教職員や地域団体と連携して課題解決に取り組んでいます。黒潮町は必要に応じて活動の支援を行うほか、生徒のアイデア発表会には町長も参加し、活動を応援しています。コミュニティ・スクールである大方高等学校は、このプログラムを含め、学校運営全体に対して、地域住民・保護者等からなる学校運営協議会が意見を述べる体制となっています。また、高知大学総合教育センターは、年間を通じて数回にわたり高校を訪問し、プログラムの進行上の問題点に対してアドバイスをを行い、教育的な効果が発揮されるように支援を行ってきました。

○継続性

校長をはじめ、教職員の異動によって取組が減退してしまうという可能性に対して、大方高等学校では、①「学校の未来を語る会」から続く開校の理念の継承、②コミュニティ・スクールとして地域住民が参画する学校運営協議会による方針の決定、③学内人事として企画研修担当の配置、により継続性を担保しているほか、教職員が教育的効果を実感していることが、継続のための良い刺激となっています。



「高校生のアイデアによる商品開発」

地域との連携・協働による高校生の自律創造型課題解決学習から生まれた最大のヒット作が「カツオたたきバーガー」です。この商品は、高校生と黒潮町雇用促進協議会、「道の駅ビオスおおがた」の食堂「ひなたや」が協力して開発したものです。

開発した翌年には、「銀座で売ろう！」というミッションを掲げ、実際に銀座にある高知県のアンテナショップで販売活動を行いました。



「カツオたたきバーガー」

■ 立ち上げ当時

○学校再編計画と地域再生計画

平成15年11月、前身である県立大方商業高等学校を廃校とし、新しく多部制・単位制の高校を設置することが計画されました。当時の大方町（現黒潮町）は、国の地域再生計画の拠点に大方商業高校を位置づけ、学校の将来についてさまざまな角度から検討が進められました。

○「学校の未来を語る会」が地域へのまなざしを基礎に

「学校の未来を語る会」が平成16年1月に発足し、新しい学校の基本方針等について、8回にわたり審議が行われました。最終的には「地域に支えられた高校に」という考え方を提言としてまとめ、地域参画型の学校を目指すこととなりました。

平成17年4月に大方商業高等学校は、高知県立大方高等学校として再編され、「未来を語る会」は、「コミュニティ・スクール推進委員会」へと発展し、平成18年4月にコミュニティ・スクールとして指定を受けた後は「学校運営協議会」へと改組されました。



■ 展開・現在

○総合的な学習の時間に「自律創造型地域課題解決学習」を導入

大方高等学校では、「総合的な学習の時間」を活用し、アントレプレナーシップのテーマのもと、高知大学との連携で開発したプログラム「自律創造型課題解決学習」に取り組んでいます。

このプログラムは、黒潮町の地域企業やNPO、町役場などから提示される「ミッション」に対し、生徒が現地調査などをとおして自分たちなりの解決策をまとめ、最終的にアイデアを発表する活動です。

このプログラムのポイントは、地域住民と学校がミッションを下地に双方向で生徒に関わることにあります。生徒が大きく成長するだけでなく、地域の人も生徒の成長を見て元気づけられたり、生徒のアイデアが地域の課題解決や地域資源の掘り起こしなど産業振興の参考となっており、生徒、地域双方に効果が生じています。

「私たちのまちには美術館はありません。美しい砂浜が美術館です！」

黒潮町ではゴールデンウィーク中、「NPO法人砂浜美術館」が主催するイベント「砂浜Tシャツアート展」が開催されます。全国から公募したオリジナルのデザインをTシャツにプリントし、入野海岸で展示します。

平成元年から続くこのイベントに、大方高等学校の1年生はボランティアとして参加し、地域に出て行く第一歩となっています。



「砂浜美術館」Tシャツアート展

■ 今後の展望・課題



これまで行ってきた取組を継続するとともに、『生徒には夢を 保護者には希望を 地域には信頼を！』という目標に向かって、英知を結集した取組をさらに充実させていきたい。特に『地域が元気になり、大方高等学校が活性化する』という利益の双方向性を高めることが求められ、そのためには、生徒自身が力をつけること、学校の組織力を高めること、各教職員が教育のプロとしての自覚と責任感を持ち、保護者・地域の期待に応えていくことが大切です。